

体 育 科 学 習 指 導 案

指導者 熊野町立熊野第四小学校
教諭 ○○ ○○

- 1 日時 令和4年6月15日（水） 第5校時 熊野第四小学校体育館
- 2 学年 第6学年
- 3 単元名 「1・2 1・2・3のリズムで跳ぼう！」走り高跳び
- 4 単元について

（1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領体育第5・6学年「C 陸上運動」「エ 高跳び」を受けて設定した。本単元は、リズムカルな助走から踏み切って跳んだりすること（知識及び技能）や、自己の能力に適した課題の解決の仕方、競争や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすること（思考力、判断力、表現力等）や、運動に積極的に取り組み、計測や記録など自分の分担や役割を果たし、場や用具の安全に気を配ったりこと（学びに向かう力、人間性等）をねらいとしている。

（2）教材観

本教材では、①予備動作（助走・踏み切り）②空中動作（振り上げ足、抜き足）③着地の3つの動作に分けて学習する。それぞれの動作に関して、個に応じた課題が出てくることが予想されるため、課題に応じた練習の場を設定し、児童が自らの課題に応じた練習の場を選ぶことができるようにしたい。また、バーの代わりにゴム紐を活用したり、安全な着地ができるようにマットを重ねたりすることで、児童の恐怖心を軽減し、安心して取り組めるようする。

また学習のまとめとして、毎時間記録会を設定することで、自己の目標や課題を意識すると同時に、仲間の記録や課題にも目が行くように工夫したい。

（3）児童観

児童の実態については、アンケート等をもとに記入しています。

(4) 指導観（太字網掛けは共生の視点・太字下線は関わり合いの視点）

指導に当たっては、主体的に学ぶ態度を育成するために、個人の目標を立てさせる手段として、50m走のタイムと身長から目標記録を出させるノモグラムを活用し、他者の記録と比べることにより、自分の目標に向けて意欲的に学習できるようにしたい。

また毎時間、個人の目標記録との差に応じてポイントをつけ、どの児童にも毎時間の頑張りが目に見えるようにし、互いに称賛し合えるような雰囲気を作りたい。

単元の構成としては、（詳細は7 単元モデル参照）1次で学習の進め方などに関するオリエンテーションを行い、2次では、走り高跳びの学習で習得したい、知識、技能を中心とした指導を行う。具体的には、3歩助走をリズムカルに行えるようにしてから5～7歩助走へとつなげていくような助走の指導、次に振りあげ足や抜き足の動きを身に付け、安全な着地につなげていく。

3次では、複数の場を用意して自分の課題に合った場で練習できるようにすることで、課題を解決していくようにする。ここでは、主に思考力、判断力、表現力を育成していきたいので、ICT機器を適宜取り入れ、課題設定や、動きのポイントや自己の課題に気付かせるための手段として活用していきたい。その際に留意することとして、児童に「観る視点」をもたせることで具体的にアドバイスし合えるようにする。

単元の終末では、記録会を行うことで、学習をする必然性をもたせていくと同時に、より意欲的に学習ができるようにしたい。

5 単元の目標

知識及び技能	走り高跳びの行い方を理解するとともに、自己の記録の伸びや、目標とする記録を達成することを目指しながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。
思考力・判断力・表現力等	自己の課題に合った練習の場を選んだり、記録への挑戦の仕方を工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	運動に進んで取り組み、約束を守り助け合って運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすることができる。

6 単元の評価規準

知識・技能	・走り高跳びの行い方を知ることができる。 ・リズムカルな助走から力強く踏み切ることができる。 ・振り上げ足と抜き足を意識しながら、はさみ跳びをすることができる。 ・マットの上に安全に着地することができる。
思考・判断・表現	・跳の運動の動きを身に付けるための練習の仕方を知るとともに、自分の課題に合った練習方法や練習の場を選んでいる。 ・動画から自己や仲間の課題を見付け、解決する方法を考え、伝え合うことができる。
主体的に学習に取り組む態度	・積極的に運動に取り組もうとしている。 ・計測や記録など、分担された役割を果たそうとしている。 ・場や用具の安全に気を配っている。

7 単元モデル

熊四体育科単元モデル 第 6 学年 領域 陸上運動

本質的な問い（何度も問い直され答えが更新され続ける問い）
走り高跳びの楽しさとは何だろう。

単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく問い）
クラス全員が目標記録を突破するためにはどのような動きが大切なのだろう。



次		第1次		第2次		第3次	
時数		1		3		5	
0分		2		4（本時）		6	
学習の流れ		①オリエンテーション （用具や場の準備・学習のルール などの確認）		①整列・挨拶・準備運動・場の準備			
		②慣れの運動		②慣れの運動（課題に応じた練習）			
		③めあての確認		③めあての確認			
		④記録を測定する。		④本時のめあて 振り上げ足をどのように上げる と高く跳ぶことができるのか見 付けて跳ぶことができる。		④本時のめあて 自分の課題に合った場で練習し、 記録を伸ばすことができる。	
		⑤振り回り・片付け・挨拶		⑤本時のめあて 抜き足をどのように抜くとよい のか見付け、跳ぶことができる。		⑤本時のめあて 練習の成果をいかして記録会を 行うことができる。	
45分		◆予想される振りの回り 目標記録に向けて練習を頑張りたい。		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。	
		知・技		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。	
		思・判・表		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。	
		学びに向かう		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。振り上げ足がうまく いくことがわかった。		⑥振りまわり・跳ぶと 振り上げ足を高く跳ぶと よいことがわかった。	
		○		○		○	



目指す児童の姿（ゴールイメージ）

自分の目標記録に向かって練習することで跳ぶことの楽しさにふれることのできる児童

8 本時の学習展開 (本時4／6時)

(1) 本時の目標

- ・ 抜き足をどのように動かせばいいのかを考え、跳ぶことができる。(知識及び技能)

(2) 学習の展開

主な学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ◎共生の視点 ■関わり合いの視点	評価 (☆) 【評価方法】
1 チームで運動の場や用具の準備をする。 2 準備体操をする。(ジギスカン体操) 3 本時のめあてを確認する。	◇安全に気を付けて素早く場を作るように指示する。 ◇本時のねらいに迫る動きを中心に、音楽に合わせて体操する。 ◇より課題意識をもち、意欲的に学習するために、児童の振り返りを活用し、本時のねらいに結びつけていくようにする。 ■前時の跳躍を動画で確認することで課題を見付けやすくする。 ■課題が見つかりにくい児童には、動画を適宜止めることで、課題を見付けやすくする。	
抜き足はどのように動かせばいいのか考え、跳ぶことができる。		
4 自分の場で練習する。 5 抜き足のポイント(ゴムと垂直に抜くこと)を確認する。 6 確認したポイントを試す。 7 記録会を行う。 8 振り返りをする。	◇肯定的な声かけをして回り、児童の意欲を高めるようにする。 ◆適宜タブレットで撮影し、課題や練習方法をアドバイスするようにする。 ◇抜き足のポイントを共通認識するために、全体の場で実際の動きを交えながら確認するようにする。 今日のポイント 抜き足は外側に抜く・抜き足はできるだけ高く ◇上記ポイントを意識して跳ぶことができるようにするために、「外・高く」をキーワードに声かけをする。 ◇記録会のルールを確認し、安全かつ効率的に記録会が進められるようにする。 ◎お互いの競技を応援し合えるように声かけをする。 ■適宜タブレットで撮影し、アドバイスするようにする。 ◎意欲的に学習を進めるために、うまくいった動きについて全体で認め合う場を設け、次時の意欲を高めるようにする。 まとめ 抜き足はなるべく高く、外側に抜くとよい。	☆ゴムと垂直に抜きながら跳ぶことができる。 【行動観察】 【ワークシート】